



こうどうえん



福祉



学習



体験プログラム
(2024)



社会福祉法人





ふくしに触れる みんなで支える

私たちが持つ福祉の専門性やノウハウを「福祉体験学習」を通して発信し、福祉と「馴染みの関係」になってもらうこと、また将来の福祉の担い手を育てていくことを目的に取り組みを行なっています。

光道園は、障がいのある方から高齢者まで幅広くサービスを展開する複合型の福祉施設です。利用者の方、支援者であるスタッフが講師となり、皆さんのところへお邪魔して、福祉体験学習を行います。

例えば

- ・車椅子体験
- ・視覚障がいのある方へのかかわり、アイマスク体験
- ・聴覚障がいのある方へのかかわり、手話体験
- ・点字について
- ・高齢者の方への理解、認知症について
- ・障がい者スポーツ体験
- ・福祉の仕事について
- ・施設見学 など

ご希望によって、体験プログラムは、いろんな組み合わせが可能です。

光道園が考える福祉体験学習とは

光道園が考える福祉体験学習とは、出来ない事を見つける体験ではなく、出来る事、良い所を見つける体験を基本に考えています。これまでの経験から、体験授業では、できない事の印象が強く残ってしまい、良い点を見ることが出来なくなってしまいます。良い点を見つけられなければ、どう関わってよいかもわかりません。

『障がいは、人と人との間に存在するもの。相手の障がいを理解できない自分自身に障がいがある』

この言葉は、光道園のスタッフが利用者の方と関わる際についての基本的な考え方です。

相手と自分との違いを見つけるのではなく、目の前にいる人を見て、向き合い、その間にある「壁＝障害」を見つける事です。そして、その「壁＝障害」をなくすには、どんな工夫が必要か？

を考える福祉体験学習を進めていきたいと思っています。

各福祉体験学習については、カリキュラムを作成しておりますので、ご参照ください。

光道園スタッフが福祉の案内人として

福祉体験学習では、利用者の方、光道園スタッフが福祉の案内人として、お話をさせていただきます。光道園は、障がい・高齢者支援の複合型施設であり、障がい、高齢者について、ご希望の体験学習についても幅広く対応が可能です。障がい当事者であるスタッフや利用者の方からもお話を頂く機会も設けています。



体験機材を貸出が可能です。

点字板・アイマスクなど貸し出しが可能です。その他、福祉機器についてもご相談ください。

※数に限りがありますので、早めのご相談をお願い致します。

施設見学が可能です。

利用者の方の働く姿を見て感じる事、スタッフの働く姿を見て、将来の仕事を想像するなど、施設見学を通じて、福祉を身近に感じてください。ご希望の場合は、事前にご相談ください。



福祉体験学習については、光道園までご相談ください



社会福祉法人 光道園

SDGs宣言



社会福祉法人 光道園は、「一人ひとりの可能性を信じる」法人精神のもと、障がい、高齢の福祉分野における取り組みを行なってきました。

私たちは、SDGsの取り組みを通して、これまでの「すべての人の福祉の実現」に向けた取り組みを継続、強化しながら、あらゆる分野と連携により、新たな目標達成の可能性を見出していきます。

すべての人が輝き続けられる「誰ひとり取り残さない」社会の実現に向け、取り組みを進めていきます。

※SDGsとは、2015年9月に国連サミットで採択された「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」という2016年から2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。

取組方針

①福祉の芽（眼）を育てる取り組み

- ・次世代育成（持続可能な社会づくりの担い手を育成）
- ・地域の小中学校との連携

②一人ひとりの「輝き」を実現する取り組み

- ・女性が活躍できる社会づくり
- ・障がいの有無にかかわらず活躍できる場面づくり
- ・ワークライフバランスの整備

③新たな可能性への取り組み

- ・介護ロボット・センサー・ICTの活用
- ・ペーパーレス化への取り組み

④地域がつながる取り組み

- ・元気な地域、住み続けられるまちづくりへの実現

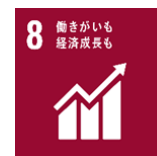
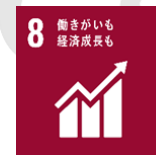
⑤パートナーとの連携の取り組み

- ・様々なパートナーとの息を合わせる

⑥食品ロスへの取り組み

- ・栄養ケアマネジメントによる食品ロスへの取り組み
- ・食材の地産地消・旬産旬消
- ※食料の輸送に伴う温室効果ガスの削減、
- ※流通時間の削減

SDGs





こどもたちのチカラでSDGsに貢献する体験

こうどうえん福祉学習では、こどもたちのチカラでSDGsに貢献できる福祉学習を進めることはできないか考えました。

光道園SDGs宣言では、「こどもたちの福祉の眼（芽）を育てる取り組み」を掲げています。こうどうえん福祉学習では、福祉を知り、学び（目標③）を通じて、みんなが（目標⑱）同じ立場（目標⑲）について考え、体験を通じて、一人ひとりがお互いの「壁」を取り除く工夫を考えることで、住み続けられるまちづくり（目標⑲）への貢献、そして、誰一人取り残さない、未来への社会を自分たち自身で作りあげていくことを実感して欲しいと思っています。

こどもたちの取り組みへの工夫のアイデアは、私たちにとっても大きな学びの機会であり、一緒に考えていきたいと思っています。

SDGs × こうどうえん福祉学習



『福祉＝しあわせ』
みんなが「しあわせ」でその人らしく生きること、生活すること



『パートナーシップ＝みんな』
一人ではなくて、みんなが同じ目標に向かって協力する



『平和と公正＝同じ立場で』
みんなが同じ立場で、話しあい、助けあえること

ターゲット目標③・⑲・⑱のそれぞれの意味について
こうどうえん福祉学習を通じて、体験・工夫・実践



『住み続けられるまち』
「しあわせ」「同じ立場」「助けあう」ことについて、
みんなで考え
取り組むことが、誰一人取り残さない、住み続けられる
まちづくりへ

誰ひとり取り残さない社会
の実現につながります



車いす体験

体験学習でのねらい

車いす体験では、普段何気なく過ごしている日常の場面において、車いすに乗ることで見えてくる視線の違いや、屋内・外を車いすで移動することで感じる不便さや不自由さを体験すること、普段の生活がどのように変化するかを感じてもらいます。車いすでの不自由さ＝「できないこと」を感じてもらうだけでなく、どのような工夫や配慮があれば、「できないこと」を解消できるのか考えてもらうことを大切にしたいと考えています。また、車いすの介助方法や、車いすに乗っていても「できること」があることを知っていただくことで、車いすや車いすに乗っている人に対するマイナスのイメージを残すのではなく、周りの人達と変わらないということを伝えていきたいと考えています。

車いす体験	必要時間	講師
	1時間程度 ※時間に関しては相談に応じます	光道園スタッフ
	可能人数	体験用具・準備物
	20名程度	車いす (学校側でご準備をお願いします。)

【体験の流れ】

- ①車いす使用の講師からのお話
車いすを使用しているスタッフが普段の生活で感じていることや、体験談をお話します。
- ②車いすの構造を理解し、操作方法を知ろう！
各部位の名称や操作方法を説明します。
- ③車いすに乗って、不便さ・不自由さ、見える世界を感じてみよう！
車いすに乗ることで感じる不便さや、車いすから見える世界を知ってもらいます。
不便さを解消するには、どのような工夫や配慮が必要か考えてもらいます。
- ④ペアになって、車いすの介助方法を知ろう！
③の体験を通して、車いすを介助する時に必要なこと・大切なことは何かを考えてもらいます。





コミュニケーション・手話（聴覚障がい）

体験学習でのねらい

手話そのものを学習するのも良いですが、まず、体全体・表情・気持ちを込めて真剣にジェスチャーで相手に物事を伝えることから始めましょう。

聴覚や言葉に障がいがある方の日常生活の不便を理解し、より良いコミュニケーションの方法や、聴覚障がい者が健聴者に求めるものを理解し、どのような手助けができるかを考えます。

	必要時間	講師
手話体験	1時間程度 ※時間に関しては相談に応じます	光道園スタッフ (手話講師として、県内の支援者向けの講師も担当しています)
	可能人数	体験用具・準備物
	40名程度	資料掲示用のマグネット

【学習の流れ】

①聴覚障がいって？

聴覚障がい者の生活が、どのようなものか、耳が聞こえないとどういうことが困るかをお伝えします。

②手話を使った場面を見てみよう！

実際に手話を使って話している場面を見てもらいます。手話だけでなく、表情などにも注目！

③手話以外のコミュニケーションを知ろう！

手話以外のコミュニケーション（指文字など）を体験してもらいます。

④手話を使い、あいさつや名前を憶えてみよう！

簡単な挨拶や名前を手話で表現できるようにします。





アイマスク体験（視覚障がい）

体験学習でのねらい

アイマスク体験では、「障がいの疑似体験」を目的としていません。疑似体験は、あくまでも一時的な体験です。見えない、見えにくい状態での大変さなどは、容易に想像できてしまい、体験がそれを助長するようになってはいけなと考ています。視覚障がいでの「できること」と「できないこと」を体験し、「できないこと」の印象ばかりが残らないように、「できないこと」を補うために、どんな工夫が必要かをみんなで考てもらいます。アイマスク体験では、見えない状態の相手をどうやって、安全に、安心して、そして見えない状態を忘れてしまうような快適な状態で、一緒に歩くにはどうしたら良いかそして介助をすることで、一時的に見えない状態を感じない様にするためには、どんな配慮が必要か、アイマスク体験を通じて、「相手を思いやる心」を養って欲しいと考ています。

アイマスク体験	必要時間	講師
	1時間程度 ※時間に関しては相談に応じます	光道園スタッフ
	可能人数	体験用具・準備物
	20名程度	・アイマスク（法人側で準備します） ・ハンカチ

【体験の流れ】

- ①視覚障がいのイメージって？
みんなの中でのイメージを共有します。
- ②視覚以外の感覚を活用し、「できること」を見つけよう！
体験を通じて、できることを見つけてもらいます。
できることを活かす為には、どんな工夫をしたかを考てもらいます。
- ③伝えてみよう！
ペアになって、介助者役がアイマスクをした人に目の前の情報を伝えてもらいます。
- ④目の不自由な方へのお手伝いの方法を知ろう！
 - ・白杖、盲導犬、ガイドヘルプ等について知ってもらいます。
 - ・二人一組のペアをつくり、一方がガイド役、もう一方が体験者となってアイマスク体験を行います。





点字体験と情報支援機器を知る（視覚障がい）

体験学習でのねらい

点字は、触る感覚を使って情報を得ていることを知ってもらいます。点字を書く体験などはあるかと思いますが、視覚障がいのある方が、実際に点字を使っている場面を見る事は少ないかと思います。光道園の利用者の方or当事者である視覚障がいのある(光道園スタッフ) に、皆さんの前で実際に点字を書いたり、読んだりしてもらう場面を見てもらう事で、障がいによる大変さへの注目ではなく、出来ることへの注目してもらえればと思っています。

その他、点字以外の視覚障がいのある方の情報収集の手段としての、最新の情報機器を知ってもらったり、点字を通して、光道園の利用者の方との交流の場面をもてるようにします。

	必要時間	講師
点字体験	1時間程度 ※時間に関しては相談に応じます	光道園スタッフ
	可能人数	体験用具・準備物
	20名程度	点字版など体験で使用する用具一式 (法人側で準備します)

【学習の流れ】

①点字を使う場面を見てみよう

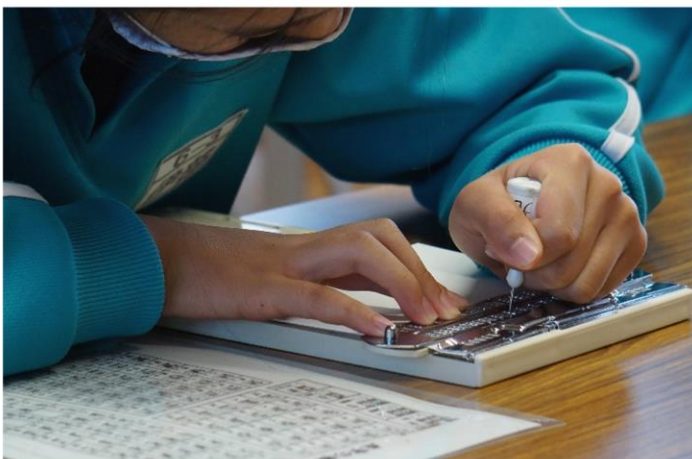
点字をどのように書く、読んでいるのか？どうやって覚えたのかなど当事者の方からの声を聞きます。

②点字を書いてみよう（名前）

点字を書く為の道具、点筆の持ち方、打ち方、読み方を学びます。

③最先端を知る！

視覚障がい=点字というイメージが強くありますが、この場面では、視覚障がい者の「現在（いま）」を情報支援機器を使う場面を見て、皆さんに知ってもらいます。





おじいちゃん、おばあちゃんのことを知ろう！

体験学習でのねらい

2025年、65歳以上の高齢者人口が3,657万人、認知症患者数は700万人前後に達し、65歳以上の高齢者の約5人に1人を占めると見込まれています。(福井県の高齢化は全国平均より3年早いと言われていました) 超高齢社会を見据え、高齢者の方についての理解を深めることを目的とし、その中で、「年をとることは自然なこと」を理解し、体の機能低下を体験しながら、高齢者に対するいたわりの心を学びます。その他にも、介護の現場における高齢者の方いつまでも元気で過ごしてもらえようような考え方、認知症についての理解についても伝えていきます。この体験を通じて、今後、将来の地域の担い手となる子供たち・学生のみなさんが、高齢者の方ともに、お互いが助け合いながら生活していく必要性を伝えます。

高齢者について	必要時間	講師
	1時間程度 ※時間に関しては相談に応じます	光道園スタッフ (地域の介護予防教室などでも講師を担当しています)
	可能人数	体験用具・準備物
	20名程度	

【学習の流れ】

- ① 誰でも年をとること、体の機能低下について考えます。
体の機能が衰えたからといって、その人の人間性が失われていくことではないという事を、簡単な説明をしながら、理解を深めます。
- ② いつまでも元気なおじいちゃん、おばあちゃんであってもらう為の秘訣についてお伝えします。
自身の大切な家族の健康を、考える手がかりとしての探求心を深めます
元気の秘訣である「基本ケア（食事・水分・運動・排泄）」の4つの視点を中心として「自立支援」についてのお話を光道園スタッフが、楽しく・わかりやすくお伝えします。



- ③ 認知症について知ろう！
認知症という言葉のイメージだけが先行しないように、正しい知識とその理解、関わりについてお



(Web授業で説明している様子)



(認知症を分かりやすく説明します)



障がい者スポーツを体験しよう

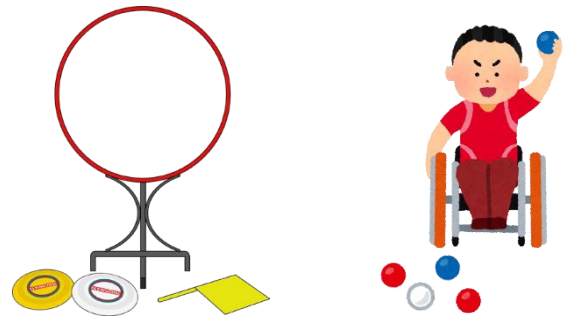
体験学習でのねらい

平成30年、福井国体では、国体・障スポの融合をテーマに開催されました。この融合のレガシーを今後も引き継ぐ必要があります。スポーツという身近でみんなが楽しめるものに触れあう事で、障がいを特別なものとして意識するのではなく、皆が同じスポーツに取り組むために、何が必要なのか（ルールの変更等）を考えます。その時間、スポーツに取り組む、全ての人が「楽しむ」をテーマに進めていきます。

障がい者スポーツ体験	必要時間	講師
	1時間程度 ※時間に関しては相談に応じます	光道園スタッフ
	可能人数	体験用具・準備物
	20名程度	障がい者スポーツ用具一式 (法人側で準備します)

【学習の流れ】

- ① 障がい者スポーツについて
障がい者スポーツは、様々な競技があります。競技の種類などについて、画像や映像を用いて、紹介します。
- ② 体験してみよう！
競技を実際に体験してみましよう。
 - ① フライングディスク
 - ② ボッチャ
 ※その他、競技については、要相談ください。



平成30年 福井しあわせ元気大会
フライングディスク競技出場



(小学校でのボッチャ体験授業の様子)



福祉のお仕事の“魅力”を知ろう

体験学習でのねらい

「福祉のお仕事」って、食事のお手伝いやお風呂のお手伝いだけだと思いませんか？
生活のお手伝い（支援）も、もちろん大切な福祉のお仕事ですが、
“楽しさ”や“やりがい”“しあわせ”を感じる瞬間は他にもたくさんあります！
実際に光道園でお仕事をしている“福祉のプロ”のスタッフが、福祉のお仕事の楽しさや、
魅力について楽しく、わかりやすくお話しします♪

福祉のお仕事の話	必要時間	講師
	1時間程度 ※時間に関しては相談に応じます	光道園スタッフ (日々、利用者の方とかかわり、支援しているスタッフが “福祉の魅力”をお話しします)
	可能人数	体験用具・準備物
	40名程度	

【学習の流れ】

- ① 福祉のお仕事内容について
福祉のお仕事ってどんなことをしているのか、世代に応じて、簡単な説明や
体験を通して分かりやすくお伝えします。
- ② 福祉のお仕事の魅力を知ってください
利用者の方とかかわる福祉のお仕事には魅力がいっぱい！
実際に働いている光道園スタッフがエピソードなどを交えてお話しします。





体験方法についてもご相談ください

●講師派遣による福祉体験

講師が直接学校に訪問して、講義や体験を行ないます。体験に必要な備品（アイマスク、点字体験に必要な物品など）も持参していきますので、事前準備なども不要です。体験内容に関しましても学校側のご希望に沿った内容に変更も可能ですので、ご相談ください。



●オンライン福祉体験

新型コロナウイルスの影響を受け、集合研修などの実施が困難な場合には、オンラインを活用したリモート講義も実施しています。障がいについてのお話や手話体験などの内容を、テレビ画面を通してお伝えできますので、ぜひ、福祉授業などに取り入れていてみてはいかがでしょうか？

詳しい内容につきましては、お気軽にお問い合わせください。

【オンラインで可能な体験】

- ①障がいについてのお話
- ②福祉のお仕事の魅力をお話しします
- ③手話についてのお話&手話体験 etc...

※詳しくは次のページにて説明しています。





オンライン福祉体験 一覧

・オンラインでの実施にあたり、以下のような環境が必要となります。

【必要備品に関して】

- ・「ZOOM」が使用できるパソコンorタブレット
- ・配信機材（カメラ、スピーカー）

※接続方法等につきましては、光道園スタッフがご説明に伺うことも可能ですので、お気軽にご相談ください。

①「障がいについて」のお話し

・「障がい」の捉え方、考え方について、光道園スタッフが実体験を通してのエピソードなどを交えながら楽しくお伝えします。

「障がいについて」のお話し	必要時間
	1時間程度 ※時間に関しては相談に応じます
	可能人数
	20名程度



②手話体験

・手話ならテレビ画面越しでも伝わります!! 簡単なあいさつや、自分の名前の手話を覚えてテレビ越しに伝えあってみましょう。

オンライン手話体験	必要時間
	1時間程度 ※時間に関しては相談に応じます
	可能人数
	20名程度

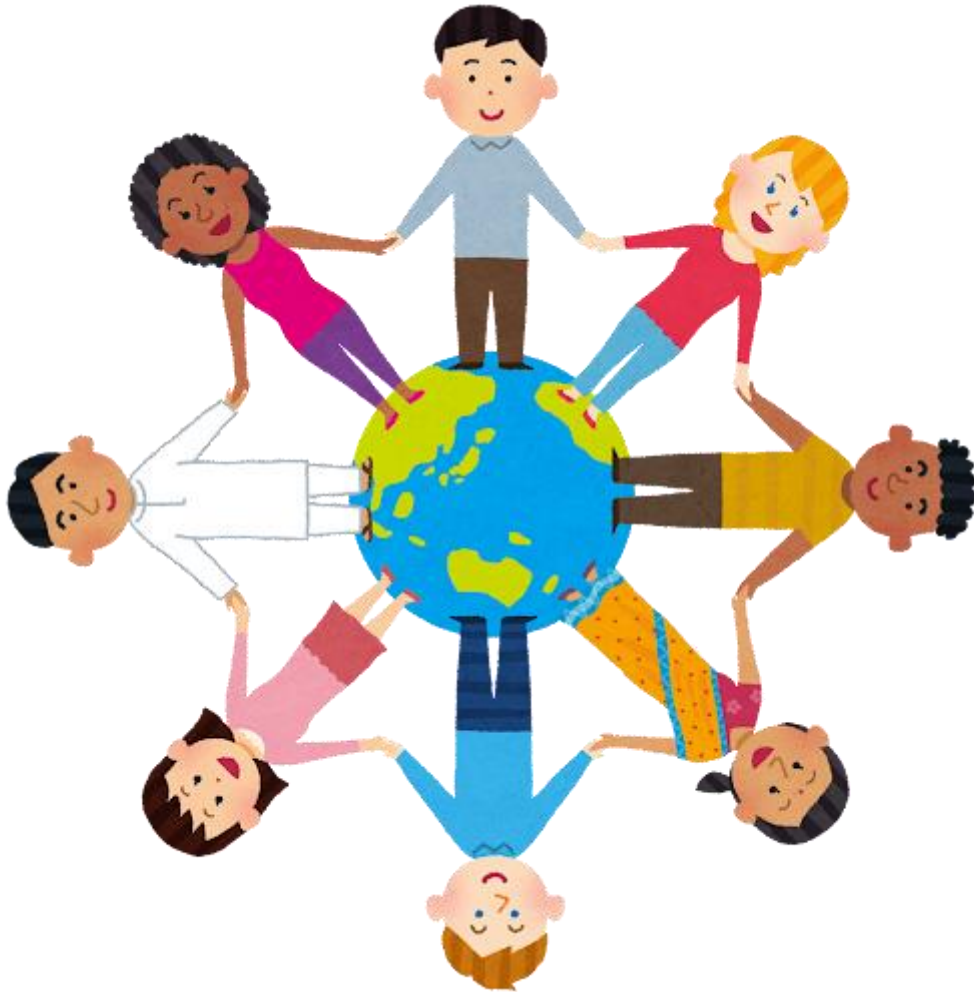


③福祉のお仕事の“魅力”

・利用者の方とかかわる福祉のお仕事には魅力がいっぱい！
実際に働いている光道園スタッフのエピソードなどを交えてお話しします。

福祉のお仕事の話	必要時間
	30分程度 ※時間に関しては相談に応じます
	可能人数
	40名程度





【福祉体験学習についてのお問い合わせ

先】

社会福祉法人光道園 事務局 企画グループ
(鯖江) TEL 0778-62-1234
(朝日) TEL 0778-34-1220